

「橈骨遠位端骨折術後 3 ヶ月の DASH スコアに影響する因子」に関する研究

1. 研究の対象

2014 年 9 月より、当院で橈骨遠位端骨折と診断され、掌側ロッキングプレート固定術および半年以上リハビリテーションを受けられた方。

2. 研究目的・方法

橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定術後は、内固定の強固さを背景に、術直後から手関節および前腕の可動域訓練を開始する施設が多い。一方で、尺骨茎状突起骨折や三角線維軟骨複合体（TFCC）損傷を高率に合併し、骨癒合後も手関節尺側部痛が残存する症例が少なくない。

当院では、TFCC を中心とした手関節尺側支持組織の修復および治癒を優先することが、術後の手関節尺側部痛の予防に重要であると考え、術後 8 週までは前腕回旋運動を制限する後療法を行っている。

本研究の目的は、この後療法を実施した症例を対象に、術後 3 か月時点において、どのような臨床因子が上肢機能低下と関連するのかを明らかにすることである。

研究期間：承認後～2029 年 4 月まで。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテ情報：年齢、性別、受傷原因、骨折の型、単純レントゲン所見、尺骨茎状突起の骨折、三角線維複合体の損傷の有無、遠位橈尺関節の不安定性の有無、受傷前の ADL および活動量 等

臨床評価項目：術後 6 週、3 か月、6 か月、1 年間の定期的な評価

自動関節可動域：回内、回外、伸展、屈曲の健側比（％）

握力：健側比（％）

DASH スコア、PRWE スコア：平均値±標準偏差

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

川崎市立川崎病院リハビリテーション科 久永希

住所：神奈川県川崎市川崎区新川通 12-1

電話：044-233-5521（代）

研究責任者：

上記で研究責任者

-----以上